

このコラムは、向島に始まり、千住、ドイツ、小倉と鷗外所縁の地を巡って来て、千駄木へと辿り着きました。亡くなるまでの三〇年間、鷗外の生活が最も長く営まれた地です。

鷗外の家の門は通称「敷下道」と呼ばれる細い通りに面していました。その「道」は今もあって、門前の敷石と門柱を支えた石が今もそのまま残っています。そこは記念館の入口にもなっていて、私たちは、鷗外が踏んだと同じ敷石を踏んで記念館の庭へと入って行きます。大銀杏、三人冗語の石、沙羅の木、根府川石などが、鷗外が住んでいた頃のことを偲ばせます。けれども、この地において、鷗外が住んでいた頃を偲ばせるのは、そうした形あるものばかりではないのです。

記念館を背にし、敷下道に立つと、団子坂に平行する形で、眼の前に幅四メートル程のコンクリートの階段があり、下った所から坂道がさらに続いています。階段と坂道の幅や角度や長さは、かつての団子坂の姿を偲ばせるのだそうです（古い写真を見ると、団子坂は確かに今あるよりはずっと狭く急な坂でした）。次に、目を上げて行くと、建物と建物との隙間から東京スカイツリーが見えます。上野の丘を越え、浅草を横切つて、墨田川を渡り、直線距離にしておよそ五キロの所に建っているのです。そしてその下に向島と呼ばれている街が広がっています。そこは、父に連れられて故郷津和野を営った鷗外少年が辿り着いた地でありました。

記念館を背にして右へと歩きますと、ブランコと滑り台のある小さな児童公園があります。鉄柵の所から見下ろすと、崖になっていて僅かばかりの木で覆われ、崖の底が見えないほどの深さなのです。その先に小学校の校庭が見下ろせます。まことにゆかしい名の小学校です。汐見小学校といえます。

滑り台の上になると視界がさらに遠くまで広がっています。前方、右手から薄褐色の建物が突き出して、屋上にアンテナらしき鉄塔が立っています。東京大学の地震研究所です。かつて旧制の第一高等学校があった所で、その賑わいの坂道（S坂）を『青年』の主人公が根津へと下って行ったのです。地震研究所の鉄塔から左へとゆっくりと目を移動させていくと、駿河台、神田、秋葉原、日本橋あたりに高層ビルが林立するように建ち並んでいるのが見えます。この衝立のような

建物群を南の境界にして、西側本郷台地と東側の上野の丘に挟まれた平地に高低様々の建物が建ち並んでいます。そこは谷中、根津、上野の街であり、その最も低くなっている所に三四郎池と不忍池があるのです。

ところで、この崖の上から、南の空をしばらく眺めていると、定期的に右（西南）から左（北東）へと高度を徐々に上げていき、やがて雲を越えていく飛行機姿を見ることができているのです。羽田空港から飛び立つばかりの旅客機です。そうしてみると、かつては衝立のような高い建物群などありはしませんでしたから、観潮楼から東京湾に至るまでの街並が見渡せたというのは間違いありません。永井荷風が次のように記しているではありませんか。

根津の低地から弥生ヶ岡と千駄木の高地を仰げば、ここもまた絶壁である。絶壁の頂に添うて、根津権現の方から団子坂の上へと通する一条の路がある。私は東京中の往来の中で、この道ほど興味ある処はないと思つてゐる。片側は樹と竹藪に蔽われて昼なお暗く、片側はわが歩む道さえ崩れ落ちせせめかと危まれるばかり、足下を覗くと崖の中腹に生えた樹木の梢を透して谷底のような低い処にある人家の屋根が小さく見える。されば向は一面に遮るものなき大空かきりもなく広々として、自由に浮雲の定めなき行衛をも見極められる。左手には上野谷中に連る森黒く、右手には神田下谷浅草へかけての市街が一目に見晴され其処より起る雑然たる巷の物音が距離のために柔げられて、かのヴェルレエヌが詩に、

かの平和なる物のひびきは
街より来る……

といったような心持を起させる。当代の碩学森鷗外先生の居邸はこの道のほとり、団子坂の頂に出ようとする処にある。二階の欄干に佇むと市中の屋根を越して遙に海が見えたとやら、然るが故に先生はこの様を観潮楼と名付けられたのだと私は聞かされている。（『日和下駄』より）黄昏時の光景もまた素晴らしいです。まだ暗くならないうちから、団子坂の上、その西方に背の明星が煌々と輝き始めるのです。あたりが暗くなるにつれ、それまでいくら目を凝

らしても見えなかった東京タワーの、そのイルミネーションが地震研究所の鉄塔のすぐ左にかすかに見えはじめます。昼間は衝立にしか見えなかった高層ビル群の航空障害灯の点滅のつらなりは東京ならではの美しさです。そして、晩秋から冬にかけて上野、谷中を跨ぐようにしてオリオン星座がその巨大な姿を現します。

再び、荷風の文章を引用しましょう。

千駄木の崖上から見る彼の広漠たる市中の眺望は、今しも蒼然たる暮靄に包まれ一面に煙り渡つた底から、数知れぬ燈火を輝かし、雲の如き上野谷中の森の上には淡い黄昏の微光をば夢のように残していた。私はシャワンの描いた聖女ジェネヴィエーブが静かに巴里の夜景を見下ろしている、かのパンテオンの壁面の神秘的な灰色の色彩を思出さねばならなかった。（『日和下駄』より）

荷風の記す「シャワンの描いた聖女ジェネヴィエーブ」とは、ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ（一八二四―一九〇八）がパリのパンテオンの壁に、月明かりの下に眠るパリを見つめる守護聖女ジェネヴィエーブの姿を描いたものです。パリを囲む城壁の向こうに、あるはずのない海が見えている幻想の風景が描かれています。荷風がこの絵を思い浮かべたのはきっと観潮楼からの連想でしょう。荷風は「わが鷗外先生は静かに書を読みまた筆を執られるのかと思うと、実にこの時ほど私は先生の風貌をば、シャワンが壁画中の人物同様神秘に感じた事はなかった」とまで記しています。金巾の襷袢に赤い筋の入った軍服のズボンを着て非番の兵隊さんのような格好の鷗外が現れるといった落ちがこの後すぐに続くのです。

今日、この崖上からの光景は、荷風が鷗外に対する畏敬と鷗外の暮す地への憧憬をもって眺めたものとまったく異なっていますけれど、ここが「観潮楼址」なのだという意識と目前の情景が相俟つた時、今日もなお、眺める甲斐のあるものだと思つていきます。



ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ
《聖女ジェネヴィエーブ》
『シャヴァンヌ』アルス美術
叢書 大正15年より
国立国会図書館蔵

展示のお知らせ

特別展

鷗外の〈庭〉に咲く草花

―牧野富太郎の植物図とともに―

会期 ● 2017年4月8日(土)―7月2日(日)
〔会期中の休館日〕 5月23日(火)、6月27日(火)

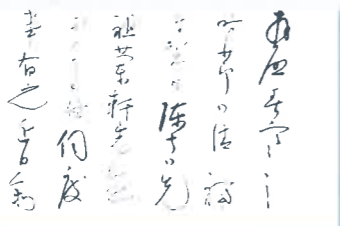
会場 ● 文京区立森鷗外記念館 展示室
開館時間 ● 10時～18時（最終入館は17時30分）
観覧料 ● 一般500円（20名以上の団体…400円）

※中学生以下無料、障がい者手帳ご提示の方と同様者1名まで無料
※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット（押印入、友の会会員証ご提示で割引可）
※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

協力 ● 高知県立牧野植物園、練馬区立牧野記念庭園記念館
東京大学総合図書館、東京大学大学院理学系研究科附属植物園



【左上】 牧野富太郎『ヒガンバナ』
『大日本植物志』第1巻第3集第10図版
練馬区立牧野記念庭園記念館所蔵
【上右】 牧野富太郎『アズサ』
高知県立牧野植物園所蔵
【下】 鷗外筆伊澤徳完書簡
大正5年3月5日付



明治27年 静男と潤三郎（観潮楼庭にて）
本展では、観潮楼で咲いていた草花と鷗外作品にみられる草花を、鷗外と同じ文久2（1862）年生まれの植物学者・牧野富太郎の植物図とともに紹介します。草花の姿や印象を文字で記録した鷗外と、部分図や解剖図を盛り込み形態や性質を緻密な図で記録した牧野。互いの日記に名前が記されるなど、2人には交流もありました。物事を正確かつ克明に捉え続けた2人の目を通して、鷗外の〈庭〉に咲く草花をご覧ください。

牧野富太郎の植物図全20点を、5月18日～7月2日の期間限定で展示します。（展示期間外は複製展示です）

関連事業のお知らせ

展示会期間中に関連イベントを予定しております。申込方法は7頁をご覧ください。

〔講演会〕

「鷗外が愛した草花 森鷗外記念館（津和野）庭園紹介を兼ねて」

講師 青木宏一郎氏（ランドスケープデザイナー）
齋藤道夫氏（森鷗外記念館（津和野）副館長）
日時 5月27日(土) 14時～15時30分
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
定員 50名（事前申込制）
料金 無料 申込締切 5月12日(金)必着

「森鷗外と植物学者・牧野富太郎 ―二人の接点は?―」

講師 田中純子氏（練馬区立牧野記念庭園記念館学芸員）
日時 6月10日(土) 14時～15時30分
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
定員 50名（事前申込制）
料金 無料 申込締切 5月26日(金)必着

〔文の京ワークショップ〕

「ボタニカルアートを描こう」
講師 石川美枝子氏（植物画家）
日時 5月30日(火)、6月6日(火)
13時30分～15時30分 ※2回連続講座
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
定員 14名（事前申込制）
料金 2000円（材料費込）
申込締切 5月9日(火)必着

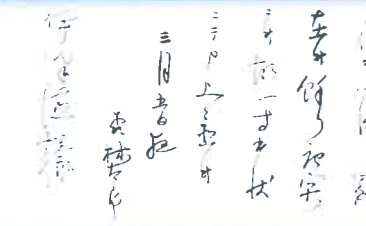
ギャラリートーク

展示室にて当館学芸員が展示解説を行います。

4月19日、5月10日、24日、6月7日、21日
いずれも水曜日14時～（30分程度）
申込不要（展示観覧券が必要です）

★子ども向けギャラリートーク

小中学生を対象とした展示解説を行います。
5月20日(土) 14時～（30分程度）
申込不要（高校生以上の方は、展示観覧券が必要です）



展示報告

2012年11月に開館した文京区立森鷗外記念館は、2017年に開館5周年を迎えます。今年度最後の刊行となる本号では、記念館のこれまでの活動(展示・イベント)を一挙に振り返ります。

2012年度

- a 開館記念特別展**
「150年目の鷗外」
2012年11月1日(木)～
2013年1月20日(日)
観潮楼からはじまる
- 関連事業
講演会「鷗外—その歴史小説誕生の軌跡」
11月3日(土・祝) ●山崎一穎
講演会「鷗外の坂」
12月9日(日) ●森まゆみ
- b コレクション展**「手紙で語る鷗外の交流」
2013年1月24日(木)～4月14日(日)
○関連事業
講演会「アンヌとパッパをつなぐもの」
2月24日(日) ●小川慶子

- 講演会
「千駄木のメイトル、鷗外と若い人たち」
4月6日(土) ●清田文武

2013年度

- c 特別展**
「鷗外が見た風景—東京方眼図を歩く—」
2013年4月19日(金)～6月23日(日)
○関連事業
講演会「鷗外・散歩する『青年』と『雁』」
5月25日(土) ●坂崎重盛
講演会「いま・ここへの注視」
6月9日(日) ●須田喜代次
- d コレクション展**
「鷗外と詩歌—時々のおもひ—」
2013年6月28日(金)～9月8日(日)
○関連事業
講演会「森鷗外と佐佐木信綱」
8月4日(土) ●佐佐木幸綱
- e 特別展**
「鷗外と画家原田直次郎—文学と美術の交響—シンフォニック—」
2013年9月13日(金)～11月24日(日)
○関連事業
講演会「東京美術学校西洋画科をめぐる原田直次郎と森鷗外の立場」
10月20日(日) ●新関公子

- 講演会「森鷗外・原田直次郎の「ミコン」時代と『うたかたの記』」
11月23日(土) ●大塚美保

2014年度

- f コレクション展**「鷗外への賀状」
2013年11月29日(金)～
2014年1月26日(日)
○関連事業
講演会「鷗外宛年賀状」を読む」
12月7日(土) ●山崎一穎
- g コレクション展**
「雁—映画化、舞台化された名作」
2014年1月30日(木)～2月23日(日)
○関連事業
上映会「雁」
2月11日(火・祝)
- h コレクション展**
「鷗外親子が訳したグリム童話」
2014年3月1日(土)～4月20日(日)
○関連事業
講演会「グリム童話—子ども部屋に入った話話(タルヘン)—」
3月15日(土) ●吉原素子
- i 特別展**
「『雁』の劇場—鷗外が試みた、或る演劇—」
2014年4月26日(土)～6月22日(日)
○関連事業
講演会「100年前の演劇と鷗外」
5月17日(土) ●児玉竜一
講演会「上演された鷗外—俳優と劇場」
5月31日(土) ●神山彰
- j コレクション展**
「教室で出会う鷗外—鷗外と仲良くする方法—」
2014年6月27日(金)～9月7日(日)
○関連事業
講演会「鷗外の声に耳をすませて」
8月24日(日) ●紅野謙介
イベント「紙芝居で出会う森鷗外」
7月30日(水)、8月20日(水) ●スキスス
- k 特別展**「流行をつくる—三越と鷗外—」
2014年9月13日(土)～11月24日(月・祝)
○関連事業
講演会「三越の近代化と、森鷗外一家」
10月18日(土) ●和田博文
講演会「明治の文化サロン—森鷗外と『流行』をめぐる—」
11月16日(日) ●宗像和重

主な寄贈図書一覧

(2016年1月～12月)

左記の貴重な資料を文京区立森鷗外記念館にご寄贈いただき誠にありがとうございます。未永く保存・活用させていただきます。

【著者寄贈】

- 『文芸研究 第125号』明治学文学芸研究会 2015年2月 * 鷗外「曾我兄弟とホフマンスタール」オイティブス王—改作による過去と現在の架橋—井戸田総一郎著収録
- 村松洋著「明治前期における『研究』の概念の変容と『研究所』の成立過程」(『技術と文明』第38巻20巻1号 2016年1月抜刷)
- 山口誠司著「日本語を作った男 上田万年とその時代」集英社インターナショナル 2016年2月
- 『歌壇』通巻348号本阿弥書店 2016年4月 * 明星研究会「秋の日のワイオロンの翻訳試、あたらしい言葉の輝き 厭世と苦悩の真像—森鷗外の翻訳家坂井修一著収録」
- 現代短歌 第4巻 第5号 2016年5月 * 評論「古泉千枝と観潮楼—坂井修一著収録」
- 『イメージ&ジェンダー』VOI・4 池田忍「他編」彩樹社 2003年12月 * 『孕む身体—女性作家の描いた妊娠の近代—』藤木直美著収録
- 『美術運動史研究会ニエース』第154号美術運動史研究会 2016年4月 * 原田直次郎、及びその周辺の人物児島薫著収録
- 渡辺善雄著「通説に挑む文学教材の研究 中篇小说」『通説に挑む文学教材の研究 高校篇』いずれも鷗出版 2016年9月
- 星一著「星新一要約・解説、星マリナ監修」二十年后「新潮社」2015年9月
- 新谷祐弘、新谷鈴子著「西雲の詩—新谷祐弘・鈴子作品集—」双文社 2014年12月 * 『海外通言者—黄昏の緑いきらめき—』新谷祐弘著収録
- 佐藤裕亮著、横川端序「鷗外の漢詩と重医・横川唐陽」論創社 2016年6月
- 大塚美保著「東京を駆けめぐる女子学習者—一八〇年代の小金井喜美子—」(『文学』隔月刊第17巻第6号 2016年11月抜刷)

【発行所寄贈】

- 『特別企画展 セカイブンガクとセイイチヨウブンガク』北九州市立松本清張記念館編刊 2016年1月
- 『原田直次郎 西洋画は益々奨励すべし』吉岡知子(他)編著 青幻舎 2016年2月
- 『学習院女子中等科女子高等科125年史』学習院女子中等科女子高等科編刊 2014年3月(改訂版)
- 『顕彰誌 緑の作家 中助助』静岡市文化振興財団編 静岡市 2016年3月(第2版)
- 『佐佐木信綱研究』第5号 佐佐木信綱編 佐佐木信綱研究会 2015年12月 * 鷗外と信綱—今野寿美著「資料紹介 森鷗外から佐佐木信綱宛書簡 佐佐木朋子著ほか収録」
- 『企画展 考古学と文学 考古学者・鉄剣・詩人の見た古墳—さいたま文学館編刊 2016年3月』
- 『鷗外百花譜—鷗外が愛した四季の花—』森鷗外記念館20周年記念特別展図録「森鷗外記念館(津和野)企画・構成・発行 2016年3月 * 津和野が生んだ芥川賞候補作家 伊藤佐喜雄」
- 『東洋文化 復刊第110・111合併号 無窮会 2014年12月 * 無窮会専門図書館 珍蔵本紹介 吉田野軒文書 鷗外森先生年譜』鈴木望著ほか収録
- 『森鷗外記念館報 ミュージアム・データ』第20号 森鷗外記念館(津和野)企画・構成・発行 2016年3月 * 津和野が生んだ芥川賞候補作家 伊藤佐喜雄
- 『August Rodin und Madame Hanako (オーギュスト・ロダンとマダム花子)』Georg Kolbe Museum 編刊 2016年 * Verthehen erfordert mehr als Vertrautheit Mori Ogai-Hanako-Rodin』Beate Wondet著収録

【特別展 鷗外と花袋—近代の文学を築いた二人の接点—】

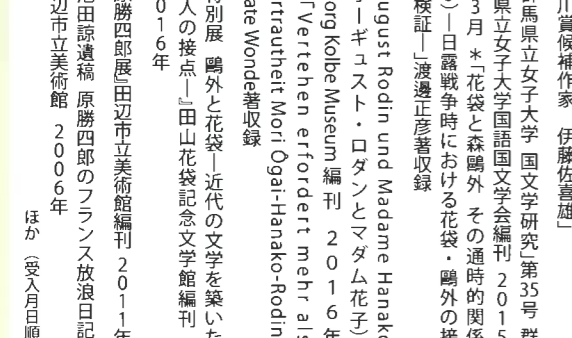
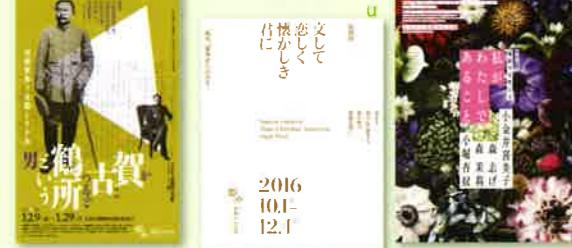
田山花袋記念文学館編刊 2016年

『原勝四郎展 田山花袋記念文学館編刊 2011年』

『池田諒遺稿 原勝四郎のフランス放浪日記』

田山花袋記念文学館編刊 2006年

ほか(受入日順)



- l コレクション展**
「鷗外之印—鷗外の捺した十八類—」
2014年11月29日(土)～
2015年1月25日(日)
○関連事業
講座「篆刻を体験—雅印を彫ろう—」
12月21日(日) ●川内伯豊
- m コレクション展**
「文京区立森鷗外記念館新収蔵品展」
2015年1月29日(木)～4月19日(日)
○関連事業
対談「団子坂上の日々—父・類を中心に—」
3月14日(土) ●森哲太郎 倉本幸弘
- 2015年度**
特別展「谷根千、寄り道、文学散歩」
2015年4月24日(金)～7月12日(日)
○関連事業
講演会「鷗外と漱石の、谷根千」
6月28日(日) ●中島國彦
講演会「若き日の森鷗外—文壇と交友—」
7月5日(日) ●出口智之
- n コレクション展**
「鷗外を継ぐ—木下太郎—」
2015年7月17日(金)～9月27日(日)
○関連事業
講演会「鷗外を継ぐ者—木下太郎のバリ—」
8月22日(土) ●今橋映子

- o コレクション展**
「ドクトル・リントラウ」
2015年10月3日(土)～12月6日(日)
○関連事業
講演会「『魔睡』の時代—催眠術から霊術へ—」
10月31日(土) ●柳廣孝
講演会「鷗外とその時代の医療」
11月14日(土) ●酒井シツ
- p 特別展**
「奈良、京都の鷗外—今日オクラガアキマシタ。」
2015年12月11日(金)～
2016年2月7日(日)
○関連事業
講演会「森鷗外と奈良、京都」
1月9日(土) ●田良野哲
- q コレクション展**
「1915-16—100年前の鷗外とその時代—」
2016年2月11日(木)～4月3日(日)
○関連事業
講演会「大正四、五年の森鷗外—転生への渴望—」
3月19日(土) ●小泉浩一郎
- 2016年度**
特別展「私がわたしであること—森家の女性たち—」
喜美子、志げ、茉莉、杏奴—」

- r コレクション展**
「祝古鶴所といふ男」
2016年12月9日(金)～
2017年1月29日(日)
○関連事業
講演会「祝古鶴所と鷗外—兄たり弟たり—」
1月22日(日) ●宗像和重
- s 特別展**
「死してなお—鷗外終焉と全集誕生—」
2017年2月2日(木)～4月2日(日)
○関連事業
講演会「与謝野夫妻の崇敬の師—森鷗外—」
3月11日(土) ●逸見久美
- t コレクション展**
「流行をつくる—三越と鷗外—」
2016年7月1日(金)～9月25日(日)
○関連事業
講演会「舞姫卒業をめぐる—」
8月7日(日) ●山崎一穎
- u 特別展**
「文として恋しく懐かしき君に—鷗外、即興詩人の10年—」
2016年10月1日(土)～12月4日(日)
○関連事業
講演会「熟成されるゆめみるひと—森鷗外即興詩人「翻訳の10年」—」
10月23日(日) ●須田喜代次
講演会「鷗外即興詩人の影響」
11月5日(土) ●小林幸夫
- v コレクション展**
「一切秘密無く交際シタル友—賀古鶴所といふ男—」
2016年12月9日(金)～
2017年1月29日(日)
○関連事業
講演会「祝古鶴所と鷗外—兄たり弟たり—」
1月22日(日) ●宗像和重
- w コレクション展**
「死してなお—鷗外終焉と全集誕生—」
2017年2月2日(木)～4月2日(日)
○関連事業
講演会「与謝野夫妻の崇敬の師—森鷗外—」
3月11日(土) ●逸見久美

2012年度

▼記念日イベント
○誕生日記念上映「鷗外を語る」
●2013年1月19日(土)

▼文の京ワークショップ
○「トルペイント」
●2013年2月18日(月) —他1件
●ブックカバーをつくってみよう!
●2013年3月23日(土) —他1件

▼親子プログラム
○「本のおはなし・鷗外と文の京の作家たち」
●2013年3月23日(土) —他1件
●石橋幸子

▼新・観潮楼歌会
○「学術シンポジウム」
○「光源としての森鷗外」
●2013年3月6日(水)
●小泉浩一郎、宗像和重、井戸田総一郎、高橋義人、大石直記

▼朗読会
○「鷗外作品を味わう『高瀬舟』『電車窓』」
●2013年3月16日(土) —他6件
●広瀬修子

▼文の京ワークショップ
○「いま、(近代)を問い返す」
●2013年3月6日(水)
●小泉浩一郎、宗像和重、井戸田総一郎、高橋義人、大石直記

▼記念日イベント
○「鷗外と『二文字に思いつく』」
●2013年7月20日(土)
●小堀鶴一郎、倉本幸弘

▼誕生日記念対談「鷗外と脚氣」
●2014年1月26日(日)
●森千里、加賀乙彦

▼文の京ワークショップ
○「俳句講座1 俳句に親しむ」
●2013年6月30日(日) —他5件
●佐藤文香

▼親子プログラム
○「アンティーク木製スタンプで」
●2013年12月7日(土) —他5件
●落合崇

新・観潮楼歌会

○「森鷗外記念館で現代アート! 假象の創造」
●2013年10月23日(水)~11月24日(日)

○「5人の歌人による公開歌会」
●2013年9月1日(日)
●山内晶太、大野連夫、服部真里子、花山周子、東直子 —他4件

▼朗読会
○「俳句が描く鷗外の世界」『雁』ほか
●2014年2月23日(日) —他3件
●中村彰男、山本都子

▼鷗外講座基礎編 6件
2014年度

▼記念日イベント
○「鷗外記念講演会『鷗外と自由』」
●2014年7月12日(土) —他4件
●平野啓一郎

○誕生日記念講演会
「博物館長としての鷗外—晩年の功績」
●2015年1月18日(日) —他6件
●田良島哲

▼文の京ワークショップ
○「親子プログラム『お話をつくってみよう』」
●2014年8月2日(土) —他6件
●雪舟えま

○記念館近隣文学散歩II
「鷗外を歩こう—小説『青年』をたどる」
●2014年11月9日(日) —他6件
●森鷗外記念館解説ボランティア

▼新・観潮楼歌会
○「森鷗外記念館で現代アート! So2」
●2014年9月13日(土) —他6件
●生命の連鎖・イメージの連鎖

○文京区の建築探訪
「近所の賢況空間『銭湯地』」
●2015年2月16日(月)~2月22日(日) —他6件
●文京建築会ユース

▼朗読会
○「『山椒大夫』を読む」
●2014年8月23日(土) —他3件
●金田瑞奈

▼鷗外講座応用編 6件
2015年度

▼記念日イベント
○「鷗外記念講演会『雁』の東京」
●2015年7月10日(金) —他5件
●森まゆみ

誕生日記念講演会「鷗外とロシア文学」

●2016年2月11日(木祝) ●龜山都夫

▼文の京ワークショップ
○「歌会 at モリキネカフェ」
●2015年8月28日(金) —他7件
●東直子、佐藤文香

▼新・観潮楼歌会
○「森鷗外記念館で現代アート! So3」
「刹那」止まれ、お前ははにかにも美しいから」
●2015年10月3日(土)~12月6日(日)

○文京建築探訪
「森鷗外記念館の設計、その手法」
●2016年2月28日(日) —他4件
●陶器二三雄

▼朗読会
○「高瀬舟を読む」
●2016年8月1日(土) —他3件
●かたりと

▼鷗外講座基礎編 6件
2016年度

▼記念日イベント
○「鷗外記念対談『森茉莉という自由』」
●2016年7月17日(日) —他6件
●小島千加子、島内裕子

○誕生日記念イベント「鷗外さんがいる!」
●2017年1月28日(土) —他6件
●中野成樹+フランクケンス

▼文の京ワークショップ
○「親子向け推奨『ハッパ』の手紙をまねる」
●2016年8月6日(土) —他6件
●華雪

▼新・観潮楼歌会
○「対談『団子坂の日々』」
●2016年6月3日(金) —他6件
●吉本ばなな、谷都雄

○トークショー「『コーヒー』のある風景」
●2016年7月23日(土) —他6件
●DPACK、草薙洋平

▼朗読会
○「語り『樋口一葉』にこりえ」
●2016年5月15日(日) —他3件
●横浜ポर्टシニアター

▼鷗外講座応用編 6件
2016年度

●開催日 ●講師【敬称略】

ショップ便り

森鷗外記念館では、知友から鷗外のもとに寄せられた書籍の翻刻を紹介する『文京区立森鷗外記念館所蔵 森鷗外宛書簡集』のシリーズ化を計画しています。鷗外筆書簡は、『鷗外全集(全38巻)』岩波書店(昭和61)~平成2年)に収録されていますが、鷗外宛書簡については、研究論文や展覧会図録に掲載されたものもあるもの、多くは未発表となっています。

第1巻は、鷗外終生の親友でその遺言を筆記したことも知られる賀古鶴所の書簡を収録。賀古から鷗外に宛てられた書簡111通を中心に、賀古鶴所関連書簡全127通の翻刻を一挙掲載しています。仕事、家内、政治情勢、詩歌のやりとりから、親友同士の間で愛のない話まで、書簡群からは、固い絆で結ばれた友情が垣間見られます。当館ショップでの販売の他、ご希望の方には通信販売も対応していますので、お気軽にお問い合わせください!



定価2,500円(税込)
A5変形版/カバー装144頁
監修:宗像和重
協力:森鷗外記念会

これからの催しもの

催しは全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせ下さい。

★応募多数の場合抽選とさせていただきます。
★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

5月20日(土) 11:00~12:30 鷗外講座基礎編 森鷗外の旅路 第1回「故郷からの旅立ち」 講師:倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場:講座室 料金:無料 定員:45名 申込締切:5月8日(月)	5月27日(土) 14:00~15:30 展示関連講演会 「鷗外が愛した草花 ——森鷗外記念館(津和野)庭園紹介を兼ねて」 講師:青木宏一郎氏(ランドスケープガーディナー)、 齋藤道夫氏(森鷗外記念館(津和野)副館長) 会場:講座室 料金:無料 定員:50名 申込締切:5月12日(金)
5月30日(火)、6月6日(火) 13:30~15:30 ※2回連続講座 文の京ワークショップ「ボタニカルアートを描こう」 講師:石川美枝子氏(植物画家) 会場:講座室 料金:2000円(材料費込) 定員:14名 申込締切:5月9日(火) 2回の講座でそれぞれ1枚ずつのボタニカル(植物学的)アートを描き、額に入れてお持ち帰りいただけます。ご応募は、2回ともご参加いただける方に限ります。詳細はお問い合わせください。	6月10日(土) 14:00~15:30 展示関連講演会 「森鷗外と植物学者・牧野富太郎 ——二人の接点は?」 講師:田中純子氏(練馬区立牧野記念庭園記念館学芸員) 会場:講座室 料金:無料 定員:50名 申込締切:5月26日(金)
6月3日(土) 11:00~12:30 鷗外講座基礎編 森鷗外の旅路 第2回「海を渡って」 講師:倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場:講座室 料金:無料 定員:45名 申込締切:5月19日(金)	6月17日(土) 11:00~12:30 鷗外講座基礎編 森鷗外の旅路 第3回「不忍池の畔り」 講師:倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場:講座室 料金:無料 定員:45名 申込締切:6月2日(金)

◆◆上記イベントの申込方法◆◆
事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。

②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号・参加者が中学生以下の場合は学年を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。 ※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

【ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。】

地域情報

文京区内には多くの文化施設があり、施設同士でさまざまな連携事業を行っています。森鷗外記念館では、区内の複数施設と相互割引を展開! まち歩きや文化施設巡りに、お得な割引情報をご活用ください!

旧安田楠雄邸庭園

旧安田楠雄邸は、大正8年に建てられた和風邸宅で、関東大震災や第二次世界大戦の戦火を逃れ、ほぼその姿を変えずに現存しています。実業家・藤田好三郎によって建てられた邸宅は、大正12年から旧安田財閥創始者・安田善次郎の娘婿・安田善四郎が住み、やがてその長男・楠雄に引き継がれました。楠雄逝去後、平成10年に東京都の名勝に指定され、修復工事を経て、同19年から一般公開されるようになりました。

邸宅は、建築の造りや意匠はもちろん、資材一つ一つにまでこだわりが見られます。庭園では、春にはしだれ桜、秋には紅葉を楽しむことができます。5月3日から7日までの5日間は連日公開され、昭和初期に三代永徳齋が手掛けた五月飾りを鑑賞することができます。



東京都文京区千駄木5-20-18
開館時間●10時30分~16時(入館は15時まで)
公 開 日●毎週水・土曜日
入 館 料●一般500円/中学生200円/小学生以下(保護者同伴)無料/日本ナショナルトラスト会員無料

岩田専太郎コレクション 金土日館

金土日館は、大正末期から昭和40年代にかけて活躍した挿絵画家・岩田専太郎の常設美術館です。専太郎の挿絵原画約800点と、晩年手掛けた美人画50点を所蔵しています。日本画家・伊東深水に師事し、若くして挿絵画家として不動の地位を築いた専太郎は、73歳で逝去する昭和43年までの間に約6万枚の挿絵を描いたと言われます。専太郎の挿絵は作品によって異なるタッチで描かれ、繊細な筆致でありながら遠近法を生かした大胆な構図が、物語により深みを与えます。

現在、金土日館では、昭和31~32年に東京新聞で連載された、村上元三『平賀源内の挿絵画稿』を展示中です。数下通りから少しだけ足を延ばして、専太郎の画業に触れてみてはいかがでしょうかでしょう。



岩田専太郎(くれない) 昭和30・40年代
東京都文京区千駄木1-11-16
開館時間●10時~16時(入館は15時45分まで)
開 館 日●毎週金・土・日曜日
入 館 料●一般600円/小中学生300円

2017年度前期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24	25	26	27	28	29

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

コレクション展「死してなお——鷗外終焉と全集誕生」
2月2日(木)～4月2日(日)

特別展「鷗外の〈庭〉に咲く草花——牧野富太郎の植物園とともに」
4月8日(土)～7月2日(日)

コレクション展「生誕150年 森家の次男、森篤次郎」(仮称)
7月7日(金)～10月1日(日)

● 休館日

編集後記

日本中の植物を採集調査し、多くの新種を発見、命名したことから日本植物分類学の基礎を築いた牧野富太郎。植物をこよなく愛した牧野が、最も好んだものの一つにサクラが挙げられます。鷗外もまた、多くの作品にサクラを登場させており、日記や短歌からもサクラに親しんでいたことが分かります。

「文京花の五大まつり」に数えられる「文京さくらまつり」は、昭和46年度から播磨坂さくら並木(文京区小石川4丁目、5丁目境)で行われています。この地域に松平播磨守の上屋敷があったことから、坂道が「播磨坂」と呼ばれるようになりました。さくら並木には、ソメイヨシノを中心に約120本のサクラが植えられています。今年の開催は3月25日から4月9日までで、連日さまざまなイベントが開催されます。

ところで各都道府県にシンボル花・木があるように、23区にもそれぞれ区花・区木があることをご存じでしょうか。文京区の区花はツツジ、区木はイチヨウです。「文京さくらまつり」が始まる頃、「文京つつじまつり」が始まります。根津神社のツツジを見たあとは、当館のイチヨウを目印にご来館ください。

交通案内



●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別介護老人ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00 ~ 18:00 (最終入館は17:30)

休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、
年末年始(12月29日~1月3日)、及び展示替期間、燻蒸期間等

ogai
ト
文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum